

令和7年度 黒沢尻北高等学校教職員 働き方改革アクションプラン

～「持続可能な働き方目標（SWSGs）の設定と実践～」

黒沢尻北高等学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン（2024～2026）」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現 状

【定量的現状】

- ◆ 「岩手県教職員働き方改革プラン（2024～2026）」目標達成状況
時間外在校等時間が月80時間以上の者
・R6年度:5人(参考:R4年度:2人、R5年度:4人)
- ◆ 年次休暇の取得状況について(年間一人当たりの平均取得日数)
・R6年度:16.3日(参考:R4年度:14.0日、R5年度:15.5日)

【定性的現状】

- 教職員の意識
・ICT機器の利活用及び情報の共有が進んでいる。
・仕事量の削減、いわゆる「スクラップ」は容易ではない
- 管理職のマネジメント
・教職員のワークショップや仕事の平準化を通し、業務改善の取組を進めている。

2 目標・目指す姿

県の働き方改革プランの目標を前提に、以下の目標を設定します。

【学校独自の目標】

- 時間外在校時間が月80時間以上の者をゼロにする。
- 教職員一人当たりの平均時間外在校等時間を38時間とすることを目指します。
- 年次休暇の平均取得日数を16日以上を目指します。

【目指す姿】

- ・教職員一人一人が、やりがいを感じながら業務に前向きに取り組むことで、質の高い教育を持続的に提供する。
- ・教職員が、家庭のための時間や自由時間を確保できている。
- ・教職員のウェルビーイングを確保する。

3 （2を達成していくための）具体的取組内容

| | | |
|-----------------|---------------|---|
| (1) | 教職員の健康管理 | ・管理職が、休暇取得について積極的に呼びかけを行います。 ・勤務時間外在校状況により、該当教職員に声掛けし、健康確保の観点から面談をします。 |
| (2) | 学校における業務改善の推進 | ・業務改善のための話し合いを持ち、職員の発案による業務改善を推進します。 ・ICT機器の積極的な活用により、調査や成績処理等業務の効率化を図ります。 |
| (3) | 業務の明確化・適正化の推進 | ・行事の見直し等で業務負担の集中を軽減します。 ・部活動については、外部人材の活用により、教員の負担を軽減します。 |
| 令和7年度 重点取組事項 | | ・令和7年度から行事の見直しや部の統廃合を進め、負担軽減に取り組みます。 |

4 アクションプランの周知方法

- ・プランを学校のHPに掲載し、会議等を通じて教職員にも周知します。
- ・学校運営協議会を通じて、地域・保護者に対してプランの内容の説明を行います。